

ベランダ de キエーロ ガイドブック

～キエーロからはじめるエコな暮らし～



ベランダ de キエーロ

70cm(高さ) × 90cm(幅) × 50cm(奥行)

※写真は、西川材使用のベランダdeキエーロです。

生ごみを自宅で簡単に処理するキエーロの不思議を楽しみながら体験してみませんか？



エコレンジャー つるゴン

「ベランダ de キエーロ」とは、箱型の生ごみ処理器です。箱の中に黒土を入れ、黒土のバクテリアによって生ごみを分解するもので、ベランダや玄関先の小スペースに設置することができます。キエーロを上手に使うことで、自宅で簡単に生ごみを処理することができ、ごみの減量にもつながります。

鶴ヶ島市生活環境課とエコ鶴市民の会は、平成30年度より、家庭で手軽に生ごみを処理できるよう「ベランダdeキエーロ」の普及、啓発に取り組んでいます。多くの方がキエーロを通じて「エコな暮らし」を体験し、環境の保全に対して興味や関心を持っていただけたらと考えています。

キエー口ってなあ〜に？

- ◇キエー口は、箱型の生ごみ処理器で、箱の中に黒土を入れて使用します。
- ◇特別な菌等は不要で、黒土の中にいるバクテリアが生ごみを分解します。
- ◇設置する場所は、バクテリアの活性を保つため、日当たりや風通しの良い場所が効果的です。



キエー口の特徴は？

【主役は黒土の中にいるバクテリアです！】

- ◇黒土の中にいるバクテリアが生ごみを分解するため電気代などの維持費がかかりません。
- ◇バクテリアが生ごみを酵素の作用で分解するので、土の量も増えません。
- ◇使い方も簡単で、正しい使い方をすれば虫や臭いも発生しにくいという特徴があり、ベランダ等の小スペースに設置することができます。

【生ごみの分解はどのように進むのか？】

- ◇土の中には、多種多様なバクテリアが存在し、その数は、1gに100～1,000万にもなると言われています。バクテリアは、体内で合成した酵素を使って生ごみを分解し、分解後に生じた分子状の物質を栄養素として体内に取り込んでいます。

【キエー口に入れられるものは？】

- 野菜くず、残飯などです。卵の殻や魚の骨などの硬い物は時間がかかりますが、簡単に碎けるようになります。天ぷら後の廃油も入れることができますが、土が固い塊となるため、定期的に土を入れ替えるなどの工夫が必要です。

さあ 準備を始めましょう

キエ一口を始める前に必要な備品を準備しましょう。

◇用意するもの(あったら便利な物)はこちらです。

①黒土 約100ℓ(キエ一口の7分目ぐらいが目安です)
市販の黒土(14ℓ入り)を7~8袋です。

②スコップ
中型の剣先スコップ等

③ジョウロまたはバケツ等

キエ一口に水を補給するために使用します。

④蓋付きの容器(あれば便利！)

キエ一口のサイズによっては、生ごみを蓋付きの容器にためて2~3日分を埋めるようにします。

腐りやすいものは、ためずにそのまま埋めてください。



キエ一口を使ってみましょう

あらかじめ生ごみを埋める穴の数(3~4ヶ所)を想定しておきましょう。
埋めた場所がわかるように目印を置くと便利です。

①土に穴を掘ります

生ごみが露出しないように、20~30センチぐらい穴を掘ります。

②生ごみを入れます(1回に入れる量は約500gまで)

土が生ごみに付着するように、水も加えましょう。

③「生ごみ」「水」「土」をよくかき混ぜます

生ごみはできるだけ細かくし、水と土をよく混ぜましょう。

④乾いた土で表面に蓋をします

生ごみが見えないように、乾いた土でしっかりかぶせると虫や臭いが発生しにくくなります。

上手に使うポイント

夏場は4～5日、冬場は10～20日で分解されます



①生ごみが露出しないよう20～30センチぐらいの穴を掘ります

次に埋める穴を想定して掘りましょう。穴は、3～4ヶ所が目安です。

②生ごみを入れます

生ごみに土が付着するよう水も一緒に加えましょう。

生ごみは、1回に500g程度まで。

水分量の目安は、土を握ったら

だんご状になる程度です。

水分が少ない⇒微生物が活動しにくい。

水分が多い⇒生ごみが腐って臭う。



③生ごみ、水、土をよくかき混ぜます

スコップを使用し、生ごみはできる限り細かくし、土と水をよく絡めるようにします。

**ポイントは、
"ざくざく"しっかり混ぜることです！**

④乾いた土で表面に蓋をします

生ごみが見えないように、乾いた土でしっかりかぶせると臭いや虫が発生しにくくなります。

表面の土は乾いた状態を保ってください。



以後。①から④の繰り返し。

埋めた場所がわかるように目印を置くと便利です